



あいち朝日遺跡ミュージアムの今を伝える情報誌【季刊誌】

朝日遺跡だより

2025年9月

vol.18

企画展

弥生人といきもの 2025

虫のおしらせ



シリーズ／発掘ファイルNo.2「貝殻山貝塚(後編)」

ミュージアム再発見「貝輪形土製品」

ミュージアムの草花お花実ガイド／10～12月

弥生ムラづくりプロジェクトレポート／「田植え体験」

学芸員がお答えるQ&Aコーナー

／「アカ」と「クロ」は何でイヌなのですか？

ミュージアムグッズ紹介／緑茶ティーバッグ

弥生ムラぐらし進行中／「どんぐりの灰汁抜き」他

企画展 「弥生人といきもの2025」

期間 2025年7月19日(土)～9月15日(月・祝) 場所 あいち朝日遺跡ミュージアム本館・企画展示室

主旨

本展は恒例の夏休み期間の子ども向け展示として企画しました。いきものと弥生人の関わり方という視点から、弥生時代について紹介する展示の第5回目です。今回のテーマのいきものは「虫」です。弥生人はどのように虫とつきあっていったのか?第1章では「たたかひの歴史!」として弥生時代の害虫対策について、第2章では「おしらせいろいろ」として朝日遺跡から出土した昆虫を調べてわかった過去の朝日遺跡の環境とその変遷について、第3章では「虫のおくりもの」として弥生時代に始まった養蚕について、それぞれ紹介しました。虫とたたかひ、虫のいる環境で暮らし、絹を得るために虫を飼う、そんな弥生人の姿に思いをさせつつ弥生時代に興味を持つきっかけとなる展示を目指しました。

本企画展の見どころ・ポイント

- 1 朝日遺跡を始め、日本各地の弥生時代の遺跡から出土した資料から、稲作農耕社会では必須であった害虫対策の様子を紹介。
- 2 秋津遺跡(奈良県)出土のノコギリクワガタや、2023年に発表された纏向遺跡(奈良県)出土の世界最古のチャバネゴキブリ破片など、遺跡から出土した虫として特に注目度が高い資料を展示。
- 3 出土した昆虫から過去の遺跡の環境がどう読み解けるのか、主に朝日遺跡での出土例から紹介。
- 4 日本最古と考えられる絹片が付着した有田遺跡(福岡県)出土の細形銅戈を始め、弥生時代から古墳時代初期の貴重な絹製品を展示。

あいち朝日遺跡ミュージアム
弥生人といきもの2025
虫のおしらせ
あいち朝日遺跡ミュージアム企画展

2025
7.19(土) ▶ 9.15(月・祝)

【関連講座等】※応募詳細は裏面をご参照ください。

開催日	講師	定員	観覧料	申込	申込
8月9日	【ムシが語るヒトの歴史—縄文時代から明治まで】 講師/森 勇一氏(東海シニア自然大学)	50名	個人 300円 団体 200円	大人 300円 小学生 200円	2025年7月15日(火)まで
9月13日	【弥生人のとなりにいた虫】 講師/田中 恵美(あいち朝日遺跡ミュージアム学芸員)	25名	個人 250円 小学生 150円	個人 250円 小学生 150円	2025年9月10日(金)まで

あいち朝日遺跡ミュージアム
〒452-0932 愛知県津島市朝日貝塚1番地 TEL.052-409-1467
■開館時間 9:00～17:00(最終入館 16:30) 休館日 7月21日(月) 8月11日(月) 9月15日(月・祝)
■観覧料 無料(小学生以下は別途料金) 7月22日(火)～9月15日(月・祝)は別途料金あり
■駐車場 150台

あいち朝日遺跡ミュージアム
SNSもご覧ください
https://aichi-asahi.jp/

企画展開催中に開催したイベント

講演会・講座

企画展をより楽しめる講演会や講座を開催しました。

講演会

「ムシが語るヒトの歴史—縄文時代から明治まで」

開催日 2025年8月9日(土)

講師 森 勇一氏(東海シニア自然大学)



講座ヒストリーカフェ

「弥生人のとなりにいた虫」

開催日 2025年9月13日(土)

講師 田中 恵美(あいち朝日遺跡ミュージアム 学芸員)

夏休み自由研究サポート

「朝日遺跡新聞をつくろう!」

開催日 2025年8月2日(土)

講師 田中 恵美(あいち朝日遺跡ミュージアム 学芸員)



特別講座I

「野生生物を骨から知ろう!」

開催日 2025年7月27日(日)

講師 三谷 智広氏(株式会社パレオ・ラボ)



特別講座II

「身近な花粉をみてみよう!」

開催日 2025年8月3日(日)

講師 森 将志氏(株式会社パレオ・ラボ)



虫のおしらせ」

弥生人は虫をみていない？

今回テーマとしてとりあげた「虫」は、過去の企画展でテーマとしてきた「鳥」や「魚」などとは、弥生人との関係性という点において、1つ大きく違う点がありました。それは、弥生人が虫の絵を描いたり、虫の形をまねた道具を作った例がありません、ということ。朝日遺跡では1点も出土していません。本展でご紹介したように、朝日遺跡の土の中からは弥生時代に生きていた虫の体の一部がたくさんみつかり、その出土した虫の種類を同定することで、朝日遺跡の過去の環境の推定までできています。現代人よりもずっと自然に近い暮らしをしていた弥生人のそばにはいつも虫がいたはずなのに、虫は表現の対象ではありませんでした。

このことは、弥生人が虫を「縁起の良いもの」とはあまりみなしていなかったことを示しています。弥生人が銅鐸や土器などに絵を描くのは、マツリで使う道具に祈りをこめるためでした。なので描かれるのは弥生人にとって良いイメージを

持つ絵です。トンボやカマキリが描かれているとされる銅鐸は10点以上あるのですが、同じ鋳型でつくられた兄弟銅鐸や同一工房製とされる銅鐸が多く、生産地は限定されます。今回レプリカを展示した、教科書にもよく掲載される国宝の桜ヶ丘5号銅鐸にはトンボ・カマキリ・クモと3種類も虫が描かれていますが、これはかなり例外的な作例なのです。おそらく、虫が描かれた銅鐸がつけられた地域では「トンボ・カマキリ・クモは稲作を助けてくれる益虫である」と知られていたのでしょうか、まだまだ弥生時代の人々の間で一般的な知識ではなかったのかもしれませんが。銅鐸以外の道具で虫を表したものとなると、土器に「クモの絵」とされる1点、木製品に「竹トンボのような形」とされる1点がある程度で、ほとんど例がありません。『日本書紀』には「日本の国の形はトンボが交尾している形だ」と神武天皇が語る話がありますが、そんなトンボの縁起の良いイメージが広まるのは、弥生時代よりも後の時代

なのです。これは今回の企画展での大きな気づきでした。

しかし水田の稲や収穫した米をまもるために害虫と日々たたかい、カイコを飼い絹を生産する養蚕が始まり高貴な人々は絹の服を着るようになる、そんな虫と関わる暮らしを続けるうちに、日本では虫についての知識が深まっていき、やがて虫をめぐる文化が形成されていったのでしょうか。そのはじまりの時代を知る機会になっていただけたならば幸いです。(田中恵美)

企画展の解説動画を放映しました



企画展中は当館本館の休憩スペースにて企画展担当者による解説動画を放映しました。

開催予定のイベント

古代体験プログラム

火起こし体験、カラフル勾玉づくりに加え、月替わりで開催の土日祝限定メニューです。(写真は作例)

ミニチュア石包丁づくり

弥生時代の稲作にも使われた石器、石包丁を作ります。スレート板を磨いて磨製石器ができる過程を体験しよう。

10月



【時間】
15:00～(約45分)
【教材費】
50円
各回先着 10名

※石をレンガで削るため服が汚れる可能性があります。あらかじめご了承ください。

貝殻アクセサリーづくり

古代の技法にならって石器で貝殻に孔をあけます。その貝殻に紐をとおして自分だけのネックレスを作ろう!

11月



【時間】
15:00～(約45分)
【教材費】
50円
各回先着 10名

※体験で加工した小さな石材を使います。誤飲防止のため小さなお子様から目を離さないでください。

稲わらで正月飾りづくり

体験水田で収穫後の稲わらを刈り取り横槌でたたいて柔らかくします。その稲わらで正月飾りを作ってみよう。

12月



【時間】
15:00～(約60分)
【教材費】
250円
各回先着 10名



貝殻山貝塚（後編）～弥生時代前期の環濠集落～

貝殻山貝塚周辺は、国の史跡に指定された後しばらくは目立った発掘調査はなく、貝塚や集落の実態に関する調査研究に大きな進展はありませんでした。しかし、1995（平成7）年から1996（平成8）年度にかけて、史跡南側の隣接地で、貝殻山貝塚資料館の拡充整備のための発掘調査が行われると、新たな知見がもたらされました。

この発掘調査では、史跡指定地の南側に沿うように幅約2.5～4.5mの溝が巡っていることが確認され、弥生時代前期に掘られた環濠だと推定されました。これにより、貝殻山貝塚は弥生時代前期の環濠集落であり、朝日遺跡に最初に居住した人々が営んだ集落跡だということが分かったのです。さらに溝の一部には、厚い貝層が堆積していました。1971（昭和46）年の発掘調査で検出された貝塚と同様に、ハマグリ、カキ、シジミを主体とし、出土した土器から貝層は弥生時代前期から中期前葉にかけて

形成されたということもわかりました。また、この弥生時代前期の環濠の南には、弥生時代中期前葉の溝、弥生時代中期中葉の溝が巡っており、時代とともに集落域が拡張されていった様子が窺えます。環濠の外側には墓も造られており、方形周溝墓や土坑に埋葬された人骨なども多く見つかりました。

2017（平成29）年には、史跡の再整備を目的として、レーダー探査やトレンチ発掘によって、史跡地内の環濠の位置を探る調査が行われました。その結果、史跡の南東部に弥生時代前期の環濠の続きが埋まっていることがわかりました。ここでも貝が堆積し、弥生時代前期から中期前葉の土器等が出土しました。

発掘調査で明らかになった環濠は、土舗装による平面表示、環濠の一部復元と貝層の断面表示及び貝層の復元、史跡地内では環濠平面表示と貝層の平面復元などの整備が行われました。ミュージアムの敷地内を散策することで、弥生時代前期の環濠や貝層の様子を知ることができます。

さて、発掘調査によって確認されている弥生時代前期の環濠はまだ一部だけです

が、これまでの調査成果を参照することで、もう少し全体の様子を推測できそうです。まず、1971年の発掘調査で人骨などがみつかった第3貝塚は、貝層の堆積の仕方などが1995・1996年調査の環濠の貝層とよく似ていることから、前期の環濠の続きである可能性があります。そうすると、下の推定図のように、貝殻山第1貝塚を中心として、史跡指定地をぐるりと取り囲むように環濠が巡っていたと考えられます。ちなみに、下の推定図にもとづけば、東西約130m、南北110mの楕円形の環濠集落だったと想定できます。

しかし、これらの推定を確定するためには、まだ調査が行われていない部分の発掘調査を行い、丁寧に検証していく必要があります。また、集落のほぼ中央に位置する小山状の第1貝塚の性格、集落内の竪穴住居等居住施設の状況、環濠の外側で検出されている埋葬人骨（お墓）との関係など、これから解明していくべき課題もたくさんあると言えるでしょう。今後発掘調査など研究成果を積み上げ、さらに具体的な集落の姿を明らかにしていければと思います。

（原田幹）



環濠と貝層の断面(1995年度)



環濠と貝層の復元



史跡貝殻山貝塚と環濠の推定位置



環濠の検出状況(2017年度)



貝層の平面表示



改めて知ると朝日遺跡のことがもっと好きになる?!

ミュージアム再発見

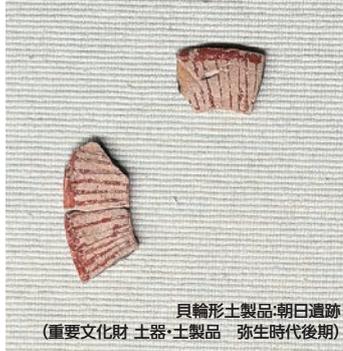
あいち朝日遺跡ミュージアムのスタッフが改めてみなさまに見てほしい注目スポットを紹介します。

今回は

貝輪形土製品

「ハイブラに憧れたって良いじゃない！」

この資料は、「貝輪」と呼ばれる腕輪を模して作られた土製品です。貝輪は大型の二枚貝や巻貝の殻を加工して作られるのですが、素材として特に珍重される貝が採集できる場所は九州や沖縄の辺りに集中しており、なかなか手に入りません。そこで、ものづくりに長けた朝日遺跡在住の弥生人は気づきました。「そうだ!自分たちの技術で今ある材料を使ってそれっぽいものを作ってしまうばよいのだ!」と。こうして作られた貝輪形土



貝輪形土製品:朝日遺跡
(重要文化財 土器・土製品 弥生時代後期)

製品は、実際に身に着ける、あるいは埋葬時の装飾に用いたのかもしれませんが。ぜひ本館基本展示室でご覧ください。

(齋藤聖)

知っておくと便利!
役立つことば



魏志倭人伝

ぎしわじんでん

3世紀の倭国の様子について中国で書かれた文章で、弥生時代終末期の日本の様子を知ることができる歴史資料です。特に邪馬台国とその女王卑弥呼についての記述が有名です。実は「魏志倭人伝」とは独立した書名ではなく、中国の歴史書『三国志』の中にある、倭人について記されている「倭人条」と呼ばれる箇所を指す略称です。『三国志』は魏・蜀・呉の同時代に鼎立した中国の3つの国について記した歴史書であり、「魏志(魏書)」30巻、「蜀志(蜀書)」15巻、「呉志(呉書)」20巻、計65巻から成ります。このうち「魏志」の最終巻にあたる巻30に魏と関係があった異民族について記述する「烏丸鮮卑東夷伝」という項目があり、この中の東夷伝(中国の東にいる異民族についての記述、という意味)の中に「倭人条」があります。つまり『三国志』「魏志」巻30烏丸鮮卑東夷伝倭人条のことを伝統的に「魏志倭人伝」と呼んでおり、『三国志』の中の一部分なのです。

(田中恵美)

ミュージアムの草花お花実ガイド 10~12月

あいち朝日遺跡ミュージアムを楽しむなら
季節ごとに移り変わる植栽・草花にも注目して屋外史跡も見てみよう!



秋から冬にかけて、ミュージアムの園地では様々な木の実を観察することができます



10月頃

マテバシイの実(馬刀葉椎・ブナ科)

常緑の高木で、本来の自生地は九州以南とされていますが、寺社の境内地などに植栽されることも多く、現在では国内各地で見ることができます。花は初夏に咲きますが果実(ドングリ)が熟すのは、翌年の秋となり、アクが少ないことから生食することもできます。



11月頃

トベラの実(扉・トベラ科)

常緑樹で、節分に戸口の魔除けとしてヒイラギの代わりに、イワシの頭を添えて飾る地方のあることが名前の由来です。果実は熟すと、三つに裂け、粘液に包まれた赤い種子を露出させますが、これが鳥のくちばしなどに着いて運ばれ、子孫を増やしていきます。



12月頃

クロガネモチの実(黒金餅・モチノキ科)

西日本の各地に見られる雌雄異株の常緑広葉樹で、雌株は秋に赤い実をつけます。名前が「金持ち」に通じることから、縁起の良い木として、庭園樹としてもよく用いられます。また、野鳥が種を運ぶことも多く、史跡貝殻山貝塚交流館前の株も自生したものです。



ミュージアム本館廊下では史跡内で注目してほしい草花を紹介する「お花実ガイド」のコーナーを設けています。植栽もヤブツバキや桑の木、シノキなど弥生時代にも通じるものを植えてあります。お花実ガイドを手に散策もできます。季節で自然に入れ替わる屋外展示としてお楽しみください。

YMPレポート



体験水田をとおして、弥生時代を体験する「弥生ムラづくりプロジェクト」。今回は、田植え体験といきもの観察会を行いました。

YMP
年間予定

田起こし

田植え

いきもの観察会

石包丁づくり

収穫

脱穀

土器づくり

土器焼き

土器炊飯

2025年

6/7



田植え体験

お米が日本に伝わってきたのは、今から2500年以上前の縄文時代の終わり頃、本格的に食べられるようになったのは、弥生時代に入ってからと言われています。今年も、貫頭衣(弥生時代の服)を着て、参加者の皆さんと一緒に「田植え体験」を行いました。“あいちのかおり”“緑米”“赤米(種子島)”の3種類のお米の苗を植えていきましたが、どう成長していくのか…。今から、楽しみです。

今回はココ

今回はココ

2025年

7/26

いきもの観察会



観察会当日は暑い日となりましたが、参加者の方々はムラ人と一緒にたくさんのいきものを捕まえました。その後、熱田神宮営繕部林苑課の寺本匠寛氏に、見つかったいきものの種類などを解説してもらいました。

ムラ仕事(環境整備)



「弥生ムラづくりプロジェクト」で欠かせない作業のひとつが、環境整備です。毎月、ムラ人とともに、体験水田、史跡貝殻山貝塚交流館前の畑、復元方形周溝墓の草取りを行っています。

弥生ムラづくりプロジェクトではみんなで田起こしから土器炊飯まで弥生時代の稲作体験に取り組んでいます。

おもてなしムラ人が活躍中

おもてなしムラ人 活動まろく

ボランティア「おもてなしムラ人」の活動をご報告します。



2025年
6/22 基本研修

今年度もボランティアスタッフ「おもてなしムラ人」を募集しました。秋からの活動を目指し、現在10名の方が研修を重ねています。

2025年

7/19

展示解説



企画展開催初日にはおもてなしムラ人の皆さんに展示解説を実施しました。次々と質問も出るなど興味津々。

2025年

7/26

手間仕事



カラムシ・コウゾ等植物の繊維取りと、クチナシ・紅花等による染色の実験を行いました。

ボランティア(おもてなしムラ人)に興味がある人はお気軽にスタッフまでお声がけください。

あいち朝日遺跡ミュージアムの取り組み

当館の 様々な 取り組み事例紹介

廊下での掲示や施設連携のことなどを紹介。

2025年

7/5~6

愛知万博20周年記念事業 地球大交流フェスタ



今年は愛知万博「愛・地球博」から20年。モリコロパークで行われた愛知万博20周年記念事業のPRブースに出展、カラフル勾玉づくりや火起こし体験を楽しんでいただきました。たくさんのお客様にあいち朝日遺跡ミュージアムのことを知っていただける機会となりました。

2025年

5/26~

あいち・なごや周遊観光パスポート



愛知県内35の美術館・博物館等に入場できる平日限定のお得なキャンペーンでこの対象施設として当館も参加しています。5月からスタートし、多くのお客様にご利用いただいています。※詳細・購入は愛知県観光協会の公式WEBサイトをご確認ください。

上記のほか様々な施設間の連携をおこなっています。当館と施設連携ご希望の方はお気軽にご相談ください。





学芸員がお答えする弥生の Q & A コーナー



日々、ミュージアムでいただく「質問カード」に学芸員が回答し館内で随時掲示しています。その中から「これは！」という質問をピックアップして解説するコーナーです。
(皆さんもぜひ当館を観覧して質問カードを書いてくださいね。)

答える人
あいち朝日遺跡
ミュージアム
学芸員 宇佐見守



Q 「アカ」と「クロ」は何でイヌなのですか？

A あいち朝日遺跡ミュージアムのマスコットキャラクター、「アカ」と「クロ」は、皆さんにとっても好評です。丸顔のアカと面長のクロ、アカは弥生犬の特徴を持つイヌを、クロは縄文犬の特徴を持つイヌをイメージしています。実は朝日遺跡ではイヌの骨が多く出ているのです。

では、朝日遺跡からは、どのくらいの数のイヌの骨が見つかっていて、どのような特徴を持っているのでしょうか。今まで朝日遺跡からは、約200点のイヌの骨が見つかっています。この数には頭や足などすべての骨が含まれているので、200匹のイヌが見つかって

いるわけではありません。比較的多く見つかっている下あごの左側の骨を数えてみると、27点を数えることができたので、少なくとも27匹のイヌが見つかっていることとなります。この数は弥生時代の遺跡から見つかっているイヌの数としてはかなり多くなっています。

縄文犬と弥生犬は、頭蓋骨(ずがいこつ:頭の骨)や下顎骨(かがくこつ:下あごの骨)の形の違いなどから見分けることができます。これらの骨を観察した結果、朝日遺跡には縄文犬や弥生犬の特徴をもつイヌ以外にも、両方の特徴をもつ混血のイヌがいたことが

わかりました。体高は37~46cmの小型から中型で、オスとメスの両方が見つかっています。若いイヌの骨はほとんど見つかっておらず、老犬ばかりでした。肋骨(ろっこつ:胸の骨)などが骨折していたイヌが見つかっていないことから、朝日遺跡のイヌは狩猟には使用していなかったようです。

イヌの骨の出土状態は、一体分がまとまって見つかったものは一例のみで、大部分は散乱した状態で見つかり、中には解体痕が見られるものもあることから、埋葬されずに食用とされた可能性が高いと考えられます。



インクルーシブなミュージアムをめざして...

テーマ:誰もが楽しみながら知識を得られる博物館

※「インクルーシブ(inclusive)」は、「包摂(ほうせつ)的」「包括的」「すべてを包み込む」を意味することばです。

当館は、車イスをご利用の方や、介助が必要な方におすすめな博物館です。建物の段差にはスロープを設置しており、施設内を安心して回っていただけます。本館受付にて車イスや歩行器の無料貸出しを行っていますので、お気軽にお申し付けください。また、本館と史跡貝殻山貝塚交流館にはオストメイト対応の多目的トイレを設置しております。



ミュージアムグッズ

緑茶ティーバッグ(3ケセット) / 972円



製造: 株式会社玉露軒

コップのフチに引っ掛けることができる緑茶ティーバッグを地元のお茶屋さんがつくってくれました。ちょうどアカやクロが手をかけているようでかわいいと好評。ミュージアム限定商品のためお土産に人気です。



セットでまわると理解が深まる & お値打ち!

共通券がお得です

清洲城の歴史、または古墳時代など連携施設とセットで巡れば学びも2倍。年パスもオススメ!

Common admission ticket

2025.04~

清洲城

一般 550円



織田信長の居城として有名な、清洲城。歴史好きな方は清須の史跡として朝日遺跡と清洲城をセットで巡るのもオススメです。

☎052-409-7330
愛知県清須市朝日城屋敷1-1

体感!しだみ古墳群ミュージアム

一般 400円 / 高大 300円



国史跡・志段味古墳群を紹介するミュージアム。この地域の歴史を学ぶなら朝日遺跡とセットで古墳時代の史跡もめぐってみよう。

☎052-739-0520
名古屋市長守山区大字上志段味字前山1367

あいち朝日遺跡ミュージアム

年間パスポート

講演会やイベント等で当館に何度も来館される方ならかなりお得です!

一般 1,000円 / 高大 600円

希望者には、おしらせメールも配信しています。さらに高大生は年パスキャンペーンを実施中!



弥生人の生活を想像して、いろいろなことにスタッフが挑戦する企画。うまくいけばみんなと一緒に楽しめる企画として実現するかも?!みなさんが知っている弥生体験、情報提供もお待ちしています。

ここから企画が実現する?! スタッフによる 弥生ムラぐらし 進行中

作業の様子を
ご覧いただけます!



1 どんぐりの灰汁抜き

縄文時代や弥生時代の遺構にはいわゆる「どんぐりピット」と呼ばれる木の実の貯蔵穴が見つかることがあります。しかし、どんぐりには灰汁が強い種類もあります。そこで今回は、アラカシという木の実の灰汁を抜く実験を行いました。残念ながら、今回は思ったように灰汁が抜けず、実験スタッフはお互いの顔を見て苦笑い。おいしいどんぐりを食べられるように、スタッフの挑戦は続きます!



アラカシの灰汁を玉杓子でくっけている様子。



アラカシの実を煮だした湯。湯は10分毎に取り替えた。

2 ワタの定植

弥生時代にはワタはまだ日本には渡来していませんが、植物性の繊維をコレクションしてみたい!!という思いからワタを育て始めました。育苗トレイから移植したのは6月の下旬。しっかり根が定着し、暑い中でも頑張ってくれています。ご来館の際に交流館前の花壇をのぞいてみてくださいね!



ワタの新芽



みんなの こえ



来館者の皆さまからたくさんのご意見、ご感想、よろこびの声をいただいています。その一部を紹介します。

フィンランドから愛知県の大学に留学していて弥生時代について知らなかったがここで学べてよかったです。2000年前の土器に触れるハンズオンもすごい。(愛知県・女性)



近くに住んでいるけど初めて来ました。三内丸山遺跡には行ったことあるのに、朝日遺跡もすばらしいですね。もっと多くの人に知ってもらいたいですね。(愛知県・男性)



Instagramでミュージアムのことを知って遊びに来ました。展示室を見ながら考えるクイズラリーは子どもだけでなく大人も勉強になりますね。(名古屋市・女性)



色々な遺跡博物館を巡っていますが、弥生時代の虫がテーマになるのはなかなか珍しいですね。いろいろな生き物の痕跡、出土等とても興味深いです。(兵庫県・男性)



中学校の夏休みの課題で身近な遺跡についての調べ学習が課題だったので朝日遺跡を選びました。平日は静かにじっくり見ることができていいですね!(名古屋市・親子)



友達のfacebookの投稿でこちらのミュージアムのことや企画展のことが詳しく紹介されていたのを見て、興味を持ち来ました!思ってたよりよかったです。(群馬県・男性)



あいち朝日遺跡ミュージアムの情報は公式WEBサイトやSNSをご覧ください! 随時発信中です。

公式WEBサイト

<https://aichi-asahi.jp/>



企画展やイベントの開催概要、講演会・講座の申し込み、学校・団体観覧の事前申込、バーチャルオンラインツアーなどもご覧いただけます。



受付中の講演会・講座の応募、団体申込も公式WEBサイトからなら好きなタイミングで応募ができて便利。



月替わりの古代体験プログラムのメニューや、イベント告知などもチェックしてみてください。

SNS(X,instagram,Facebook)



ミュージアムからのお知らせ、日々のつぶやきを投稿しています。フォローよろしくおねがいします。

<https://x.com/AichiAsahiSite>



写真映える情報を中心に投稿しています。1日限りのショート動画などもお見逃しなく。

<https://www.instagram.com/aichi-asahisite/>



すでに体験水田でのコメづくり、土器づくり、土器炊飯は当館で毎年恒例行事となっていますが、ほかにも弥生時代には植物を育てて編んだり、染色をしていたと考えられます。そうした弥生人のような生活がどこまでできるのかスタッフで実験しています。うまくいくのかどうか、そんな試行錯誤の様子も紹介していきます。